

いじめの対応から謝罪まで

学級でいじめや暴力行為が起こった場合、軽微な場合は学級の中で終わる場合もありますが、悪質な場合は、保護者の謝罪まで持つて行く必要があります。ここでは、いじめが起こった時の対応と、解決までの道筋を、順を追ってまとめてみました。

1 被害を受けた本人から聞き取る

- ・ 何があっても先生が守ることを約束する。
- ・ 具体的に何をされたのか、記録しておく。(名前・日付も)
- ・ 調べを進めていくと、場合によっては、君の名前を出す必要があることを告げ、了解してもらう。

2 学校長に報告

- ・ ことの詳細を学校長に報告し、今後の指示を受ける。
- ・ 同時に学校の いじめ担当者、学年職員、生徒指導主任、教育相談主任、養護教諭とも情報を共有する。

3 被害生徒の保護者から聞き取る

- ・ 校長にも話し、校内のいじめ対策組織等、学校体制で取り組むことを伝える。
- ・ これから事実を調べていく手順を説明し、保護者の要望を聞く。
(学校に任せるのか、保護者の謝罪まで持つて行くのか)
- ・ 解決のためには、本人の名前も出さざるを得ないことを理解してもらう。
- ・ 本人は絶対守ることを約束する。

4 加害生徒からの聞き取り

- ・ 1対1で聞き取る。
- ・ 聞き取りは、授業中取り出すか、又は放課後に行う。
(基本は授業中は避けるが、緊急の場合や事案が重い場合は、授業中でも行う。)
- ・ 「誰が言ったのか。」と聞いてきた場合は、被害者の名前は出さず、「このことを見ていた人から情報があつた。」ということを通す。
- ・ 素直に認めれば短時間ですむが、しらを切る場合は、すべて認めるまで 2時間ぐらいかけるつもりでやる。
- ・ 事案が重い場合、甘い聞き取りではなく、取り調べ感覚で行う。
- ・ 加害生徒が複数いる場合は、複数の教師が別室で同時進行で行う。
(一人の教師ですべて行くと、先に終わった生徒が、待っている生徒と口裏を合わせるがあるので、同時進行で行い、接触させない)
- ・ ひと通り聴取が終わったら、一旦教師だけで情報をつきあわせる。
- ・ 合わなかったら再度聴取する。
- ・ 必要以上に追い詰めない。
- ・ 充分反省が見られたら、謝罪する方向にもっていく。

5 報告

- ・ 学校長に報告し、校内のいじめ対策組織で情報を共有し、今後の方向性を検討する。
- ・ 事案の軽重に応じて、保護者の謝罪の場を設けるかどうかは、学校長判断。

6 生徒同士の謝罪

- ・ 教師が立ち会い、加害生徒から被害生徒に謝罪させる。
- ・ 今後もずっと教師が見ていくことを伝える。
- ・ 加害生徒が、今度は被害者になることもあるので、その場合は教師が守ることも伝える。

7 保護者に報告

- ・ まず被害生徒の保護者に報告し、今後の要望を聞く。
(子ども同士の謝罪でいいのか、保護者の謝罪も求めるのか)
- ・ 次に加害生徒の保護者に、ことの経緯を詳しく報告する。

8 保護者からの謝罪

- ・ 担任が両者の都合のつく日の夜に設定する。通常7:00頃（終了が8:00になるように）
- ・ 両方の生徒と両親を呼び出す。（どちらも両親がそろっていることが望ましい。）
- ・ 学校側は、校長、教頭、いじめ対策担当者、生徒指導主任、担任、学年主任。進行は教頭。
- ・ 加害生徒の保護者には、30分早く来るように言っておき、打ち合わせを行う。
- ・ 内容は、今日の段取りについて説明し、謝罪の方法を伝える。相手方にどんなにひどい言葉を浴びせられても、決して反論しないこと、ただひたすら謝ること。あまりにひどいことを言われた場合には教師が割って入ることを伝える。
- ・ 流れは、校長の話、担任が経緯を話す、加害生徒の謝罪のことば、保護者の謝罪、被害生徒から、続いて保護者から、最後にいじめ対策担当者が締めくくる。

9 留意点

- ・ 安易に被害生徒と加害生徒を同時に呼んで、事実をつきあわせることのないようにする。（同時に呼ぶと、力関係もあり、言いたいことも言えなくなる。）
- ・ 担任独自判断は禁物、何事も学校長に報告し、指示を受ける。今後のことについて、保護者から聞かれても、学校長に話してから返事をする伝える。
- ・ 加害生徒を追及した後に、家に帰ると親にしかられるのがいやで、下校途中でいなくなることがあるので、親に「今から帰ります。」と連絡しておくか、家まで送り届ける。
- ・ 親と連絡を取るときに、できる限り父親と話をするようにする。（一家の長なので）
- ・ 父親が在宅しているのに、「お母さんはいませんか。」とは言わない。
- ・ 以後も保護者と連絡を取り合い、子どもの様子を話し、信頼関係を築いていく。
- ・ 担任は、どちらも味方だという姿勢は貫く。

◆ 以上、いじめや暴力行為の納め方の段取りについてふれたが、緊急時には、**3**（被害生徒の保護者から聞き取る）よりも**4**（加害生徒からの聞き取り）を優先する場合もある。

● 私は、いじめは親を引っ張り出さないと解決しないと思っています。いじめは、子ども達同士で謝罪をさせて解決をしたと思っ**て**はいけません。再発します。両方の親も知った上で、白日のもとに晒すのが本当の解決への道だと思っています。

● 初任者にとっては、重い事案であり、一人に対応するのは難しいと思います。一人で抱え込むことは、更に傷が深くなるので、学校の組織に委ねるのが良い。大事な**のは**、「子ども達に良くなってもらいたい。」という願いを持ち続けること。それは教師も親も同じです。「決して見捨てない。」その気持ちがあれば通じるものです。